第1特集

利用者が主役「介護×農業」の可能性

レクリエーションや健康・生きがいづくり、リハビリテーション、そして介護予防にも！農福連携が介護の分野にも広がり、その効果が注目されている。高齢者には農業を経験した人も多く、親しみやすい取り組みといえる。具体的なメリットや課題を探ってみた。

取材・文／下境敏弘、松浦美紀
photo © kazoka303030 - stock.adobe.com/© fuaf6 - stock.adobe.com/© naroke - stock.adobe.com

健康維持、生きがいづくり、レクリエーションはもちろん、地域づくりにも貢献！

福祉の側は、障害者などが働ける場所がほしい。より高い賃金がほしい。

農業の側は、労働力がほしい。

福祉、農業、双方のニーズがマッチするのが「農福連携」だ。

深刻な農業の担い手不足を受けて、政府もこれに着目している。2019年4月には農福連携の機運の醸成を図り、強力に推進する方策を検討するため、省庁横断の農福連携等推進会議を設置。6月の第2回会議で「農福連携等推進ビジョン」として今後の推進の方向性を取りまとめた。

この「ビジョン」では、農福連携は「農業と福祉が連携し、障害者の農業分野での活躍を通じて、農業経営の発展とともに、障害者の自信や生きがいを創出し、社会参画を実現する取組」とする一方で、「農福連携を、農業分野における障害者の活躍促進の取組にとどまらず、高齢者、生活困窮者、ひきこもりの状態にある者等の就労・社会参画支援、犯罪・非行をした者の立ち直り支援等にも対象を広げ、捉え直すことも重要である」とうたっている。

実際、高齢者介護との関係でも、農福連携に注目が高まっている。長年、農業に携わってきた介護サービスの利用者が多い地域では、こうした活動に取り組む下地があるといえる。また、都市部においてもやり方次第で野菜づくりなどは十分可能だ。健康面への効果はもちろん、介護予防や自立支援に農作業を取り入れることにより、介護度の進行が緩やかになったり、改善したりといった事例も出ている。健康維持のほか、レクリエーションや生きがいづくりなど、さまざまな効果効能も期待できる。

本特集では、農福連携のオピニオンリーダーが高齢者介護と組み合わせることのメリットや取り組み方を解説するとともに、具体的な取り組み事例からその効果や課題、可能性を探っていく。

農福連携の広がり

高齢者の農福連携は農業分野の取り組みだけにとどまりません。農福連携による農的活動や農業などをきっかけに6次産業化や林業・水産業・エネルギー産業、そして多様な人々の共生などへつながることで多様な人々の可能性を引き出し、地域での新たな関係を生み出し、地域に貢献することもできます。

	効果	例
6次産業化	多様な人々が参加できる、多様な役割をつくる、交流できる	農産物の加工、販売、飲食事業などに取り組む
林業・水産業・エネルギー産業	多様な人々が参加できる、多様な役割をつくる	シイタケ栽培、木工、バイオマス発電などに取り組む
共生	交流できる、学ぶことができる、役割を自覚できる、刺激になる	障害者、子ども、生活困窮者等と共に取り組む

↓

地域振興・地域づくりへ

※パンフレット「イチから分かる 高齢者の農福連携～高齢者のゆるやか農業・農的活動～」（一般社団法人JA共済総合研究所）より作成

(C) 2023 日本医療企画